The Japan Association of College English Teachers (JACET)

東海大学国際学科英語プログラムのContent-Based Approach における日本人教員とネイティブ教員のティーム・ティーチング

Team-Teaching by Japanese and Native Speaking English Teachers in the Content-Based English Program for the Department of International Studies, Tokai University

東海大学：米澤美雪、ロバート・ゲイナー、岩田祐子
Tokai Univ.　Miyuki Yonezawa, Robert Gaynor, Yuko Iwata

１９９６年より始まった国際学科向けのContent-Based Approachによる英語プログラムの大枠の紹介は昨年、第３６回JACET全国大会（１９９７年９月６日）で発表したので、今回はその後のプログラムの改革点、前回紹介できなかったライティング／スピーキングの内容、リーディング／リスニング（日本人教員J）とライティング／スピーキング（ネィティブ教員N）の授業における連携、授業外の連携について報告したい。

I. 国際学科英語プログラムの１９９６年度から１９９８年度への改革と概要

（１）Content-Based Approach--学部、学科のニーズに合った英語プログラムを目指して、国際学科の専門分野の基礎知識となりうる英語の"content"を基礎に置いた英語プログラムである。学生の専門分野に関連するテーマへの接近を目的としながら、英語力を高めようとするものである。

（２）１９９６年国際学科２年生にのみ実験的にパイロット・プログラムを実施。１９９７年には東海大学のセメスター制実施と同時に２年生だけでなく１年生にもプログラムを実施している。

（３）９０分、週４日の授業--１年２年とも英語リーディング／リスニング（J担当、週２日）そして英語スピーキング／ライティング（N担当、週２日）で、英語の週４日体制である。

（４）ティーム・ティーチングとレベル別編成--国際学科の１学年の人数は約１００名なのでこれを５クラスに割り、J教員とN教員でペアになり同一クラスを持つ。トップ・クラス一つと４クラスの普通クラスを編成する。

１９９６年度　２年生　トップ・クラス１　　普通クラス３
１９９７年度　１年生／２年生　トップ・クラス１　　普通クラス３
１９９８年度　１年生／２年生　トップ・クラス１　　普通クラス４

（５）扱ったテーマ：J-N教員間でcontentが重複するよう配慮して、教材を収集。

<u>１９９７年度</u>

１年生　春　World Awareness/Culture/Social Interactions
　　秋　Issues for the 21st Century/ Education / Controversial Issues
２年生　春　Our Country , Our Nation/Democracy/Human rights
　　秋　Environment & Population/World Trade/Diversity (Gender & Ethnicity)

<u>１９９８年度</u>

１年生　１セメスターのテーマを３から２へ減らすことを検討中。
２年生　春　Our Country, Our Nation/Environment & Population/ World Trade
　　秋　Democracy/Human Rights & Diversity/ Model United Nations

NII-Electronic Library Service

The Japan Association of College English Teachers (JACET)

II. Speaking/Writing Components 2年生の場合

１９９６年度 スピーキング――さまざまな場面で使う(functionに基礎をおいた)会話表現の習得を目指した。

ライティング――パラグラフ作成のためのさまざまな文体（Narrative, Description, Comparison and Contrast, Opinion）の習得に力点が置かれた。

１９９７年度 スピーキング――プログラムに一年生も入り、１年次にfunction別の会話表現を強化するので、２年生ではトピックに対する自分の「意見の言い方」、「討論のスキル」にもっとしぼるように変えた。

ライティング――春にopinion paragraphを、秋にはargumentation essayを書くことを目的にした。

III. ティーム・ティーチングとコーオーディネイション 2年生の場合

（1）教材

リスニングのテキストを除けば、すべて教材は手作りなので、６つのテーマごとに教員間で分担し、収集。特にネィティブ教員の場合は毎回の教案のアウトラインまで作って日本人含む他教員にコピーを回した。日本人教員は教案は各自に任せ、教材の進度表を作り、歩調を確認した。

（2）日本人教員とネイティブ教員の授業の連携

リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングを教材の同一テーマでいかにリンクするかが、このプログラムの目玉であろう。一つのテーマ（たとえばOur Country, Our Nation のJohn F. Kennedy の大統領就任演説)に対してリーディング／リスニングクラス（J教員）では、それに対する基礎知識を**日本語で十分理解**させ、学生がそのテーマに対して考えたことや意見をはっきりと日本語で表現できるように（情報を受動し発信の準備）することがJ教員側の目的である。同時に、読む、聴くのスキルを学習させる。そしてスピーキング／ライティングクラス(N教員）に橋渡しをして、自分の意見を発信する英語のスキルを学習し、テーマに関して、**英語で自分の意見**を言い、書けるように指導する。実例を一つとって、連携の有り様を紹介する。

（3）同じクラスをもつパートナーとの連携

その他授業の連携以外に重要なものは、クラス内の各学生の課題への取り組み、進度に関して情報交換をすることである。またスピーキング力の弱い学生にはJ教員がN教員との仲立ちをする。

IV. まとめ

１９９８年度でこの英語プログラムが始まってから３年目となり、プログラムは軌道に乗ってきている。国際学科の全面的な支援（クラスサイズの縮小化、リーディングルームの設置など）もあって、よりきめ細かく学生を指導できるようにハード面がそろいつつある。各年度末にはより効果的方向へと、教材の見直しをしている。２年生で国際問題(global issues)と英語力の総括として「モデル国連」を最後に試すのも今年度の新しい試みである。学生の取り組みも２年目に比べるとスムースで再履修者が少ない。学生の間では、とにかく生半可では履修できず大変だとの意見もあるが、東海の協定留学校に「国際」の学生が大幅に増加し合格しており、大変だが満足度が高いプログラムだと支持する声が多い。

NII-Electronic Library Service